

--	--	--

(記入しないでください)

一 般 ・ 萌 芽 的 共 同 研 究 申 請 書

平成 1 3 年 1 2 月 1 1 日

京都大学防災研究所長 殿

[申請者 (研究代表者)]
 ふりがな ひぐち あつし
 氏 名 樋口 篤志

官 職 名 助手
 所属機関名 名古屋大学地球水循環研究センター
 所 在 地 (〒464-8601)
 名古屋市千種区不老町
 電 話 (052) 789 - 5467 (内線)
 F A X (") 789 - 3436
 E-mail アドレス higu@ihas.nagoya-u.ac.jp
 所内担当者名 田中賢治 (水資源研究センター)

下記のとおり共同研究を実施したいので、申し込みます。

記

研究課題 (日本語 / 英語)	均質な地表面上での不均質なフラックス分布の測定に関する研究 / Study on the surface flux measurement considering heterogeneity at homogeneous land surface
研究場所	平成 14 年度... 京都大学防災研究所内実験風洞 平成 15 年度... 琵琶湖プロジェクト集中田 (滋賀県高月町)
研究期間	平成 14 年 4 月 から 平成 16 年 2 月 まで (2 年間)
研究目的と 意義 (200 字以内)	<p>地表面フラックス (潜熱フラックス, CO₂ フラックス, 顕熱フラックス) の正確な計測技術の確立はそれぞれ水資源状況の把握, 温室効果ガスの吸収および排出, 熱環境の正確な把握等にとって重要な研究課題である. GAME 等の国際プロジェクトの成功, Asia Flux 等の国際的なフラックス計測ネットワークの確立に伴い, 独立して計測された各フラックス要素の総和が閉じない問題 (いわゆるインバランス問題) が現在顕著化している (たとえば戸田ほか, 2000 を参照). 申請代表者を含む下記研究組織メンバーはインバランス問題の中で, 各計測機器自身が持つ固有の問題を明らかにするために 2000 年, 2001 年の 2 回, 乱流計測機器の相互比較を筑波大学陸域環境研究センター・実験圃場 (草地) にて実施し, データ解析の結果, それぞれの計測器が持つ固有の問題を明らかにしつつある (たとえば, 石田ほか, 2001).</p> <p>本研究ではこれまでの経緯をふまえて, 乱流計測機器を地表面過程モデルでは均質であると仮定される同一土地被覆 (本研究では水田) に展開し, 一見して同一に見える土地被覆上での地表面フラックスの非均質性の計測をその目的に設定する. ここで得られた知見をモデル研究にフィードバックすることで, 将来的にはモデルの精度向上に貢献できると思われる.</p>

申請書タイトルの、一般または萌芽的のどちらかを====で消して下さい。
 また、E-mail (添付スタイルは、Microsoft Word 形式に限ります) による応募も可とします。送信先は別途記載。

別紙 102

<p>研究計画</p>	<p>平成 14 年度： 1．各研究室で所持している乱流機器の検定（防災研究所施設の一つである風洞を利用する） 2．これまで得られた観測知見の取りまとめ（既存の観測データ，および乱流集中観測成果等を取りまとめ，来年度の集中観測への知見にする．） 平成 15 年度： 3．琵琶湖プロジェクト集中田での集中観測実施（複数の乱流計測機器を均質地表面と仮定される複数の水田に設置し，計測を行う．その際，ソンド集中観測[レシーバーは名古屋大学地球水循環研究センター所有のものを使用]も同時に行い，大気鉛直構造も同時に調べ，大気陸面相互作用を調べる） 4．成果取りまとめ（防災研究所にて研究打ち合わせ・及び成果報告を行い，本研究成果を取りまとめる）</p>			
<p>研究組織 (研究協力者)</p>	<p>氏名</p>	<p>職名等</p>	<p>所属</p>	<p>旅行区間及び予定期間</p>
<p>(代表者名)</p>				
<p>樋口篤志 助手 名古屋大学地球水循環研究センター (名古屋-京大防災研, H14FY, 2回[7月, 2月], H15FY, 1回[2月], 名古屋-滋賀県高月町, 1回[7月])</p>				
<p>田中賢治 助手 京都大学防災研究所水資源研究センター (宇治 滋賀県高月町, 1回[7月])</p>				
<p>玉川一郎 助教授 岐阜大学工学部土木研究科 (岐阜 京大防災研, H14FY, 2回[7月, 2月], H15FY, 1回[2月], 岐阜 滋賀県高月町, 1回[7月])</p>				
<p>石川裕彦 助教授 京都大学防災研究所大気災害研究部門 (宇治 滋賀県高月町, 1回[7月])</p>				
<p>林 泰一 助教授 京都大学防災研究所附属災害観測実験研究センター</p>				
<p>石田祐宣 助手 弘前大学理工学部地球環境学科 (弘前 京大防災研, H14FY, 2回[7月, 2月], H15FY, 1回[2月], 弘前 滋賀県高月町, 1回[7月])</p>				
<p>松島 大 助手 東北大学大学院理学研究科 (仙台 京大防災研, H14FY, 2回[7月, 2月], H15FY, 1回[2月], 仙台 滋賀県高月町, 1回[7月])</p>				
<p>浅沼 順 講師 筑波大学陸域環境研究センター (つくば 京大防災研, H14FY, 2回[7月, 2月], H15FY, 1回[2月], つくば 滋賀県高月町, 1回[7月])</p>				
<p>宮崎 真 助手 筑波大学陸域環境研究センター (つくば 京大防災研, H14FY, 2回[7月, 2月], H15FY, 1回[2月], つくば 滋賀県高月町, 1回[7月])</p>				
<p>檜山哲哉 助手 名古屋大学地球水循環研究センター (名古屋 京大防災研, H14FY, 2回[7月, 2月], H15FY, 1回[2月], 名古屋 滋賀県高月町, 1回[7月])</p>				
<p>中北英一 助教授 京都大工学研究科環境地球工学専攻 (宇治 滋賀県高月町, 1回[7月])</p>				
<p>丸山 敬 助教授 京都大学防災研究所大気災害部門(耐風構造)</p>				

別紙 103

所内利用施設名(*1) (別表より)	境界層風洞・あるいはゲッチングン型風洞(平成14年度)					
必要経費 (見込額) (*3)	備品費(*2)		消耗品費・会場借料・印刷費等		旅費(研究員等旅費)	
	事項	金額(千円)	事項	金額(千円)	事項	金額(千円)
平成14年度			ラジオゾンデ (@40×20発)	800	・風洞実験 (京大防災研)	600
			風洞実験観測用設置費	150	・研究打ち合わせ (京大防災研)	300
			測器輸送費	50		
	計	0	計	1,000	計	900
平成15年度			Heガス	200	・集中観測 (滋賀県高月町)	700
			水田測器設置用小物代(ボール等)	300		
			CD-R, 8mmtape	150	・研究取りまとめ 会合 (京大防災研)	300
			ゾンデ輸送費	100		
			乱流装置輸送費	100		
			研究成果投稿代	100		
計	0	計	950	計	1,000	

(*1)本研究課題で使用する本研究所の施設、装置、機器およびデータ等で特記すべきものがあれば記入して下さい。

(*2)備品は原則として不可：要求する特別の理由がある方は別紙に記載して下さい。(萌芽的共同研究は、非該当)

(*3)必要経費は、簡潔に記入下さい。(旅費欄の例)現地調査費、研究打合せ等。

原則として、枠内に記入下さい。なお、枠内に記入できない場合は別紙により記入下さい。

また、研究経費が1年間あたり200万円を超える場合は、その理由を別紙により記入下さい。(萌芽的共同研究は、非該当)

承 諾 書

上記の申請者(研究代表者)が、京都大学防災研究所において共同研究に従事することを承諾します。

平成 年 月 日

申請者の所属機関長の職名・氏名 地球水循環研究センター長・中村健治 印

一般・萌芽的共同研究成果概要

京都大学防災研究所長 殿

[申請者(研究代表者)]

氏 名
官 職 名
所属機関名

下記のとおり、共同研究の実施結果について報告します。

記

1. 研究課題 番 号 :
課題名 :
2. 防災研究所
所内担当者名 :
3. 研究期間 : 平成 年 4 月 1 日 ~ 平成 年 2 月 2 8 日
4. 主な研究場所 :
5. 共同研究者名簿 : 別紙のとおり
6. 研究報告 : (別紙により、次の項目順に記載のこと。約 1,000 字程度 A 4 版 [縦長置き] 横書き)
(この研究報告に基づき、当研究所の「年報」に概要を掲載します。)
 - (1) 目的・趣旨
 - (2) 研究経過の概要
 - (3) 研究成果の概要
7. 研究成果の公表の方法 : (投稿予定の論文のタイトル、雑誌名等を記載してください。)
(また、公表後の論文の写し又は出版物を送付してください。なお、公表するものについては、防災研究所共同研究の成果によることを明記願います。)
8. 提出の方法 :
この成果概要原稿のうち「6. 研究報告(1)目的・趣旨(2)研究経過の概要(3)研究成果の概要」の内容保存されたフロッピディスク(MS-DOS 標準テキストファイル)を併せて提出してください。
なお、E-mail (kyodo@uji.kyoto-u.ac.jp) で送信の場合、フロッピディスクは不要です。
また、この成果概要は、共同研究終了後の翌年度の 4 月 3 0 日までに提出しなければなりません。

注) 報告書タイトルの、一般または萌芽的のどちらかを====で消して下さい。